

7/4(金) まいど！倫を号です、梅雨らしい天候が来ましたが、降り出すまで、  
いまま。働く事は健康です、健康だから働けるのです  
私は何年も休んだ事ありません、

今週の倫理

880号

2014.7.5~7.11

2) 日ニセ出来る仕事がある事ニ感謝の心で居ます。幸甚幸甚

七月のテーマ  
喜働

# 働くことは 罪悪か

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一・一九九九）のこゝばを掲載します。



え・小島サエキチ

## 働

き過ぎは罪悪だ、などとい  
つて仕事にいそしんでいる

人を軽蔑するかのような風潮が出  
はじめています。あぶない、あぶな  
い。ごまかされてはいけません。働  
きすぎの「すぎ」をうっかり見の  
がして、「働くことは罪悪だ」とい  
った見方におち入りかかっている  
のではなからうか。こうなると「な  
まけることはよいことだ」から「遊  
ぶことこそ美德である」というよ  
うになりかねない。

働きとは人生にとつてたいした  
意味のないものであるとか、休ん  
だり、遊んだりすることが本当で  
あり、働くことは生きるために止  
むをえないものであり、いやいや  
ながら、あるいは苦しみながらす  
る労働であるとか、そのように考  
えるならば、これらはたいへんな  
まちがいだ。働きは純粋な意味で  
は、むしろ楽しいものだ。うれし  
く喜ばしいものなのである。  
仕事を与えられず、働かずにじ  
つとしていることほど苦しいもの  
はない。病気になる、働けなくな  
った時、そのことがよくわかる。

（ああ、うれしい、今日も働ける。  
ああ、よかった、今日も働ける）  
そして働いているときが、また楽  
しい。これが本来であり、そして  
純粋なのである。

この喜びの働きに濁りが入った  
とき、労働となる。性にあわぬと  
か、無理強いをさせられるとか、  
他に心配ごとがあつたり、不平不  
満が重なつているとか、というよ  
うに、いやいやながら、苦しみつ  
つ働くのが労働である。本来の働  
き、純粋な働きなども含めすべて  
働きを労働と称しているのは、誤  
りなのである。労働省などという  
のも誤りで、むしろ喜働省とでも  
変更すべきであり、労働者などは  
喜働者と変えなければならぬ。

働きに対して休みと称している  
のも、じつはひとつの働きにほか  
ならない。

家にあつて家事の助けをするな  
り、日曜大工をするなりリクリエ  
ーションその他にしてもしつかり  
計画をたて、ちゃんと行動するな  
り、精神的な糧をうるとか、勉強  
するとか、そうした一種の働きを

するのでないと、かえって身体を  
害し、そのときの働きにたいして  
大きなマイナスとなる。

休みでも大いにはたらくのでな  
いと、頭はボケ、身体はなまって  
しまう。これは生理学の教えると  
おりだ。頭もつかえはつかうほど  
よくなる。大脳の新しい皮質は、  
そのようにできている。

心臓外科の先覚者であるアメリ  
カのドベীগー博士は、毎日の働  
きが他人の役にたつていると思  
うとき、心の平安が得られ、とくべ  
つな休暇旅行を計画して日常生活  
から脱出しようなどと悪あがきを  
する必要は起こらない、といつて  
いる。博士自身の仕事がとても嬉  
しく楽しいので、逃げ出したいた  
どと考えたこともないそうだ。

私たちは博士ほどの境地まで行  
きつけないとしても、仕事をたい  
せつにして、精一杯うち込んで働  
き、休みのときにも適当な活動を  
して、この限りある人生を有意義  
に過ごしたいものだ。それが最大  
の幸福なのである。

（月刊『新世』一九七三年二月号より）